

UNハビタットとの会合

2020年1月11日、伊藤大使は、イシャクUNハビタット本部エチオピア担当マネージャー兼シニア人間定住担当官及びアクリル当地エチオピア事務所代表と意見交換を行いました。

同会合の中で、UNハビタット側より、「福岡方式」を開発された松藤名誉教授が率いる専門家チームの現場での積極的且つ地道な指導により、コシエごみ集積場の美化・安定化が実現し、バハレダール市のごみ集積場の状況が改善した旨報告され、我が国の支援に対する謝辞が述べられました。さらに、現在、これまでの本事業を通じた100名以上のアディスアベバ市の担当職員、ウェイストピッカー（ごみの分別収集で生計を立てる人たち）等への技術指導及び及びJICAとの連携協力による日本での研修の成果を踏まえ、コシエごみ集積場の別側でのごみの整地作業を進めていることが報告されました。伊藤大使からは、本事業を通じてエチオピアの廃棄物管理システム確立のための支援ができたことを大変うれしく思うと述べるとともに、エチオピアの持続可能な廃棄物管理体制構築のために協力していく意思を示しました。

（参考）我が国は、2017年3月のアディスアベバ市のコシエごみ処理場でのごみの崩落事故を踏まえ、同市及びバハレダール市での福岡方式の導入による持続可能な固形廃棄物管理システムの確立を目的に、平成29年及び30年度に、UNハビタットを通じて「エチオピアの都市における廃棄物管理緊急支援」事業（計240万米ドル）を実施しました。



大使とイシャクUNハビタット本部代表及びアクリル当地代表